

住民目線のリスク・コミュニケーション(3)

開催にあたって

これまでの本取組の経緯と問題意識

平成29年3月3日

原子力・放射線部会

部会長 佐々木 聡

これまでの住民目線のリスコミ企画

第44回例会【福島支援の経験からリスコミを考える】

講師： 伴信彦氏（現NRA委員）、中田氏、高橋氏（部会員）

- ・ 現地支援の体験から、前提としての信頼構築、傾聴他の学び
- ・ 技術士としての情報伝達への心がけ、福島復興への寄与、反省を踏まえた危機対応のための準備 を自由討議

第49回例会【住民目線のリスコミを考える：事例研究】

講師： 大場恭子氏（原子力学会倫理委員長）

- ・ 経験差を埋めるための疑似相談体験（原発勤務者と娘の結婚）

第54回例会【講演と討議】福島の実況と技術士の役割

私の本質的な問題意識： 専門家の社会との向き合い方

住民目線 >> クライシスコミ、リスコミ（技術士の立ち位置）

福島原発事故後の私の問題意識

原子力・放射線の専門家の社会との向き合い方

- 技術の安全の先に、**人と社会を前提とした安全**への自覚が足りなかった（**最大の反省点**）
- 説明責任Accountability、技術の翻訳translationはある意味、政府、事業者、規制者、研究者目線
⇒**技術orientedから、人と社会orientedへ**
住民目線の技術（者） ← 但し人々の認知が必須

何が悪かった、できなかったのか？

平時、危機時の個人・組織の行動はどうあるべきだったか？

本質的な反省と分析が必要（個人の技術力は除いて）

フェーズ別（平時のリスコミ/クラコミ/ポストクライシス）

対象別（専門家/コミュニティ/一般（一般国民、立地住民））

・ **個人 / 組織として自発行動の成否**

・ **できたことの指標**

◆ **組織**： 声明、機能する委員会やチーム

◆ **共通**： Q&A、直接支援/間接支援

◆ **super個人**： SNS、ブログ他、

重要なテーマだが、
これだけで大きなテーマ

・ **できた組織にあっただも**

専門、経験、平時からの準備

★行動力（素早さと地道さと体力）、★組織力、★影響力 認知⇔機会提供

・ **情報収集と情報発信、異分野交流・連携が鍵**

社会との接点を担う専門家の責任と役割

- 技術・安全の説明には、社会と人（の健康と生活）を知らねばならない。**原子力以外の学びと連携が必要**（リスクトレードオフの前提）
- **専門家の肩書**で人々に語る際の**倫理規範の自覚**
（見解のぶれ:学術的な場との違い、自身の言葉の社会への影響力）
- **言葉の定義に関する準備**
（専門家の技術的拘りではなく、人々の感覚を意識した表現への配慮）
- 技術の背後に**人と社会を意識する訓練、リスクを聞く訓練**
- **立ち位置に関する人々からの認知**（平時からの努力）
- 人々の放射線リテラシー向上に向けた**行動**（受容のためではない）

本当はエネルギーのS+3Eも、信頼されれば同じ目標だが・・・

S:「安全/Safety」+ 3E:「供給安定性/ Energy security」

「経済性/ Economic growth」 「環境保全/Environmental conservation」

福島復興のための専門家の役割

人と社会を意識した**住民目線の技術(者)**として

- **福島の中に対して**

避難地域の正しい問題認識（放射線以外も）

県内の地域間格差への理解、優しさ

地域を支える他分野専門家との連携

- **福島の外に対して**

止まった福島イメージの復興（情報発信）

放射線リテラシーの向上のための活動

福島の人々に、決して後悔させない覚悟を!!

福島の復興・創生に関する高校生と九都県市首脳との意見交換会から 「第70回九都県市首脳会議」 (平成28年10月26日)



福島県産のものには放射性物質が他県産より多く含まれている？

**福島をずっと見ているTV (NHK Eテレ)
HP (自治体、地方紙(福島民報、福島民友)
その気になれば、生の声はあふれている!!**

農業

- 偏見を持たず作物の魅力を知ってほしい

観光

- 観光地として魅力あふれ、学びたい福島を知ってほしい

帰還

- 少子高齢化を反映した帰還は将来の日本を支える

福島の現状を自分自身で知る

福島の放射線量は他地域と大きな差はなく、生活するのに問題はない

福島に対する不安や偏見

事故発生



避難指示解除

- 帰還する人々のほとんどが中高齢者
→少子高齢化の急激な加速



→ 35万人 (H26年)



福島県立福島高等学校 スーパーサイエンス部放射線班
鈴木太郎 法井美空 佐々木綺奈 熊谷りさ さんたちの発表から

技術士会 防災支援委員会の遺伝子



防災特別委員会

Top

防災減災の輪

第1回 2005年9月26日



大島 久(おおしま ひさし)

防災特別委員会・委員長、建設部門
APEC Engineer (Civil & Structural)
日本工営株式会社・顧問
a3334@n-koel.co.jp

防災特別委員会の発足の経緯から

1. 阪神淡路大震災(1995年1月17日)から10年経過した。震災当時、技術士は各地・各方面で大活躍をされた。ただし、技術士会としての組織的な活動がなく、知名度もなかった。例えば、個人の技術士が地方自治体に協力を申し出て、「技術士会とは何をするとところ・・・」「・・・どこそこのボランティアに入って働いてください・・・」などと対応された・・・などの事例が報告された。「技術士会として組織的に災害対応し、社会貢献によって技術士会の知名度を上げて」という提案が理事会で審議され、同年5月「災害対策委員会(仮称)設置」が承認され、委員会は「災害対策委員会基本計画(案)」を作成した。1998年5月理事会で「災害対応調査委員会」の設立が承認され、委員会は「災害対応調査委員会最終提案」(2002.2)を作成し、委員会が発足した。

2. 上記の調査委員会(2年間・期)が「防災専門家データベース」を作成し、データベースに登録された。「大規模災害対応の手引き」「防災会緊急連絡の手引き」を策定し、「災害対応に関する緊急連絡の手引き」を策定し、協議運営要領「災害対応調査委員会」の設立が承認され、委員会は「災害対応調査委員会」の設立が承認され、委員会は「災害対応調査委員会最終提案」(2002.2)を作成し、委員会が発足した。2000年10月に「三宅島火災」の発生を機に、委員会の提言を、データベースの防災専門家によるアンケート調査を受け、取り纏め、東京都防災担当部局へ提出した。「防災会議」の設置が承認され、委員会は「災害対応調査委員会」の設立が承認され、委員会は「災害対応調査委員会最終提案」(2002.2)を作成し、委員会が発足した。

3. 2002年7月、調査委員会の最終提案「災害対応調査委員会」の設立が、11月理事会で委員が承認され、2002年11月委員会が発足し、現在に至っている。

この定義では「防災」は「災害防止、拡大防止、災害復旧を図るための活動」を指す。この定義では「防災」は「災害防止、拡大防止、災害復旧を図るための活動」を指す。この定義では「防災」は「災害防止、拡大防止、災害復旧を図るための活動」を指す。

阪神淡路大震災から10年経過した。震災当時、技術士は各地・各方面で大活躍をされた。ただし、技術士会としての組織的な活動がなく、知名度もなかった。個人の技術士が地方自治体に協力を申し出て、「技術士会とは何をするとところ・・・」「・・・どこそこのボランティアに入って働いてください・・・」などと対応された・・・などの事例が報告された。

「技術士会として組織的に災害対応し、社会貢献しよう」という提案が理事会で審議され・・・

全国に沢山のNPOや自治体連携が生まれた

ポストクライシス時の今やること!!

- **今なら、原子力・放射線分野が抱えていた個人と組織の課題が分かっている!!**
- **今なら、多くの反省と分析により、社会の課題と必要な対策が分かっている!!**
- **今なら、同じ問題意識を持つ専門家が大量にいて、連携の必要性を感じている!!**
- **今なら、専門家の真剣さを人々に見せて、理解と協力も得ることが出来るかも!!**

経験を生かし切る覚悟で、今やるべきことを考え抜き、具体的な行動に移すことが大切!!